夕刊 磐城新聞
二月五日發行
【日曜祭日翌日休刊】

新春漫筆 爐邊に倚りて
醫學博士　五十嵐雄之

一

お勤め人風に新暦正月に門松を立てお雜煮を祝ひ屠蘇酒に頬を赤らめて、いつかしお正月を濟ましたつもりでゐた私を一向おかまひなしにどし／＼押かけて來る患者の方々に忙殺されて元日さへも多忙に過して仕舞つたが流石土地のお正月舊暦の元朝から訪るゝ患者もなく周圍も至極のんびりしてほんとうの新年といふ感じ、硝子戸越しにうらゝな冬の陽を浴びてストーブの傍に倚りかゝり乍ら愛用の『みのり』の煙を輪に吐きつゝ、さま／＼の雜感、空想に耽つて居ると、嗚呼正月哉の感が深い、以下二三の漫筆もこの爐邊に倚りての所産、讀者の感興をそゝり得るや否か

一、望みをいだく心

雜誌『原理日本』の主盟として多年美濃部博士一派の天皇機關説を眞向から排撃し、或は『しきしまの道』會を組織して　明治天皇御製を以て日本國民の信條、その生活の軌範とすべしと主張し、日本主義の理論陣營に燦然として光つてゐる國士的文學者三井甲之氏は私の中學時代の恩師であつた。私の當時の思想は氏から最大最深の影響を受けて今以て忘れ得ぬ印象が刻まれてゐる。當時氏より『期待の緊張』といふ作文課題を與へられて生徒一同が頭を惱ましたことの記憶が殘つて居るが二十有餘年を過ぎた今日でも時々師の其時の訓話を思出して思索することがある『望みを抱く心』も亦この期待の緊張に他ならない

○

青嵐永田秀次郎氏は八十五點主義を人生生活の信條とすべしと唱導して居らるゝ。氏の人生觀、社會觀がこの八十五點主義にあるとことに又大いに我意を得たごとゝ思つて愉快である。私が年來たつさわつて居る醫學研究の立場から人生を又社會を觀てもこの『望みを抱く心』即ち希望主義—期待主義を奉ずることが人生の最大幸福であると信じて居る

謁松井先生墓
珠雲　小野務平

一逝回頭新涙根
未全酬得啓蒙恩
低徊獨對舊師墓
俯仰不堪追慕敦

大雨に日暮れる長屋
…（詩）…
野地隆

大雨が降つて來てドウドウと
若い激情のほとばしりより強く
強く木片屋根にあたつて
すさまじき惡魔の叫び
妻は愚痴を云ひ乍ら
天井からもる水にバケツや盥を出す
雨水はボットン／＼と正しいリズムで
いとも愉快な音樂を奏でる
それを聽き乍ら默々として
私は過去の享樂の琴線にふれる
恐痴ぽい私の妻は
ちめ／＼した雰圍氣と南京虫の出る
壁を見つめてどうにもならない生活に

2月6日
△天草の亂起る（寛永一四）△正金銀行創立（明治一三）△國際聯盟は滿洲國不承認を可決（昭和八）△米國在露都總領事館廢止を發表△館山海軍機三機墜落（同一〇）

講談 黄金魔及
(68)　高桑義生作　樋口悦也畫
七曜星の光（三）

『それが……手前どもは取る物も取りあへず出立いたしたので、當時は何といふ事もございませなんだが恐らくその夜多少の事は判明いたしたものと存じます!』
と十郎は答へた
『左樣か。さきの長崎奉行久世丹後の話によると島原屋はいよいよ隆盛であるさうな。多少ねたみなどもあらう?』
『あらうかと存じます。賊も尋常一樣の者ではございますまい』
『その土主は、密貿ひであらうな?』
『いゝえ』
と答へたが、十郎思はず度をうしなつた
『さうか。とにかく物騷な世の中になつて來た。殊に長崎といふ土地は犯罪人のかくれるに都合のよい場所ださうな。思はぬ大それた念にも念をいれて警戒する事だな』
『はッ、十分注意いだして居りますが、この上とも嚴重にいたさせます』
『よろしい。くれ／＼もいつて置くが殿は見ぬ先からの御執心ゆゑ。その事はよく東左衞門に傳へい』
『承知仕りました』
なにかお咎めでもあるかと思つたがまづ當座は無事に切りぬけたので十郎はほツと安堵の胸をなでおろした
『時に、これは丹後から聞いたのだが、東左衞門には大そうよい娘があるさうだな。長崎一の評判だとか……!』
『はい、しかし……』
『それはひとり娘か?』
『左樣でございます』
『そのやうな評判娘、一度見たいものだな。はゝゝゝ……』
田沼は又一代の好色家である。尤もかれの權力で出來ない事はないのだが、その上を見ならふ下で伊織もまた主人に劣らぬ好色家、數個所の別莊に數人の女をかこつてゐるといふ噂だ
『しかし、手前もまだ見たことがないのでございます!』
十郎はいくらか氣樂になつて、さういつた
『ほゝう、それは妙だな。どういふわけだ?』
『どういふわけか存じませぬが、東左衞門は大へん人に見せる事を嫌ひます。それにはばか／＼しいほど用心をしてゐるのでございます。手前もついぞ噂ばかりで、うしろ姿も見たことがございませぬので……』
『フウム、妙な男だな。さういへば丹後も見たとはいはなかつたやうだ。おなじ屋敷に居る者が知らぬのではなんにもならんな。虫でもつくといかんと心配してゐるのか。はゝゝ……一つ所望をしてやるかな』
『左樣でございます。面白いでございませう』
『其方一骨折つて見るかな!』
『御家老のおいひつけならば手前何なりとも……』
十郎はさう答へたが、われながらあさましい氣がした。世が世とはいへ自分も武士だ。こんな雛くちやのひゝおやぢに、口先だけとはいへ世辭をいはなくてはならないかと思ふと、自分に腹がたつた
『ではな、其方の力で江戸に引張り出して貰ふのだな。長崎では手がとゞかない。丹後は八年も居つたのだから、一度くらゐは見たのだらう。あの男が噓をいふはずはないのだから、何とか[illegible]見物といふ事にでもして、連れて來るのだな』
相手は本氣なのである。やり切れない
十郎は承諾するほかないのである
『手前、あとの使の來るまでは、いづれにしても滯在いたさねばなりませぬ。その間に一工夫いたしまして……』
『おゝ座興ではないぞ、よいか。其方原地十郎と申したな、宿は木挽町……?』
『はつ、木挽町の筑前屋に借逗留いたしてをります』
十郎は間もなく田沼邸を出た
宏壯な大名屋敷の甍が夜露にぬれ、月光にぬれて銀鼠色にひかつてゐた。突然
『待たれ』
と、かれは呼びとめられた

初冬
松本勝雄

○眞晝日のい照るぬくとさ緣先に憩ふひとゝきやすけかりけり
○裏堀のかけひの水の冷えひえと夜更をすみて雪となるらし
○聳へ立つ二ッ箭山にかゝる雲の赤々美しく朝燒けにけり
○顚覆の列車分解に工夫らの聲はつみ晝をいきほふ
○雪に明け雪に暮れつゝ今日の日も遠き君が身偲ばるゝかも
○雪もよう今宵の空はいつになく靜もり冷ゐて川音冴ゆる

小曲の鑑賞
島田忠夫

4

白梅のしろさ
わが悔恨
つまよ
歯を出だせよ
梅も、つまも痩せぬ——
なつかしき新づま
（島田　忠夫）

私の古い作である。韻律に、多少の工夫をこころみてゐる點を見て戴きたい
小曲はいふまでもなく、じよ情詩としての美しき熱情と、專ら口に上せて唄ふリズムの麗はしさ、また眞珠のやうに小詩形のうちに燦然と光るものがなくてはならぬが、同時に飽くまで各人作者の個性が現はれたものでなくてはなるまいと思ふ
元々、現在日本に行はれてゐる小曲も、起源は西歐のソネットを將來した形式に外ならないので、小曲といへば一概に情熱の詩、戀愛の甘い唄と位にしか思つてゐない人がかなり多いがそれはいろ／＼の意味で間違つた見方であつて、むしろ小曲こそは氣韻たかく、嚴肅な欲求から作られるものでなくてはならぬと私は思ふのである
故に、萬葉集とか、梁塵秘抄とか、源氏物語といふやうな、吾が國の傑れた古典文學を深く味はひ、そこに各人のおのたの學ぶ所があつてから、本當に日本的な小曲を作り出すのでなくてはならぬと思ふ。じよ情詩とか、戀愛詩として許りでなく、短歌道のやうに、寫生に準據した小曲もあつていゝのでないかと思ふのである
（完）

廣告

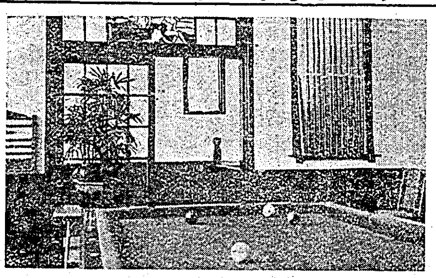
特約店 桑原商店
『取次販賣需ニ應ズ』

下痢病妙藥ヲ御紹介致シマス
天下一品散
平町ネヅミ坂角

素人料理 天下一品マヅイ
おでん 榮ちゃん
平町新田町

…サービス自動車…
團体廿人様以上にはお迎ひの自動車を差上げます。
（北は平町・南は植田町まで）

御宴會



毎度格別の御最屓いたゞき難有く御禮申上げます。
愈々御宴會季節と成りましたので・御宴會の御下命賜り度。
團体様には徳用な下記弊舘御宴會規定を精々御利用下され度御願申上げます。

松印	3.50	御會席七品付（外果物、御飯香物）藝妓花代、御酒、入浴料、サービス料	共一式
竹印	3.00	御會席六品付（外果物、御飯香物）藝妓花代、御酒、入浴料、サービス料	共一式
梅印	2.50	御會席五品付（外果物、御飯香物）藝妓花代、御酒、入浴料、サービス料	共一式

但十人様以上ノコト　藝妓ハ五人様毎ニ一人二時間　（松印ニ限リ半玉十人様ニ一人付）御酒ハ御一人銘酒二本ヅヽノコト
◎お申込みは時節柄なるべく至急下記へ
お問合せは　電話（小名濱）１０３番
通話料は弊館にて負擔いたします。
小瀧鑛泉　瀧乃湯旅館
電話１０３　割烹部

食事、喫茶、酒場を兼ねた
冬のサロン
男給の店
平・田町・電三五二

福祿ストーブ福引
景品付大賣出し
◇景品總額五萬圓◇
…賣出規定…
福引券　ストーブ御買上ノ方ニ左ノ割合ニテ進呈致シマス。
フクロクストーブ一號　大衆（中型）賣（大、小）各一本ニ付一枚
フクロクストーブ二號　大衆（大型）各一本ニ付二枚
フクロクストーブ三號　各一本ニ付三枚
フクロクストーブ四號　各一本ニ付四枚
抽籤發表　昭和十一年二月十一日東京朝日新聞ニ發表致シマス。
景品引換　昭和十一年二月十五日ヨリ四月十五日迄福引券引換ニ最寄ノ代理店ニテ景品ト引換致シマス。
景品　福引券一千枚ヲ以テ一組トシ當選ノ方ヘ左ノ景品ヲ差上グ
一等　百圓　一本　　四等　五圓　四本
二等　參拾圓　二本　　等外　特製福祿便箋（空籤ナシ）
三等　拾圓　三本
福祿ストーブ販賣代理店
平町五丁目　釜屋商店
平驛前　阿部石炭商店

生花教授
池ノ坊
生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館
須藤まつの

產科
婦人科
花柳病科
午前宅診
午後往診
入院應需
井坂醫院
平町田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

磐城代表的の土產品
山。靈峰羊羹　里。柿羊羹　海。のり羊羹　各一本金十錢
右美麗三本箱入　特價三十錢
御旅のお出入に便宜な手頃のお土產品です
小賣御希望の方お申越下さい。
製造發賣元　小川郷驛前　平屋賣店

贈答物に
鰹節
鹽鮭
日華生命保險株式會社平代理店
宍戸屋商店
平町四丁目
電話（鹽干部）二一五番（鮮魚部）四〇七番

七周年記念
自轉車
リヤカー
大特賣中
二重大奉仕
武藏山一行大角力無料入場券進呈
フタバ商會
平・新川町・橋際

如月の夜をこめて 荒れ狂つた稀有の吹雪

―突然襲つた白魔の跳梁に 度膽を拔かれた地方人士―

白魔の跳梁！ それは石城人に極めて縁の遠い新聞でのみ見る言葉と思つてゐたに、昨日の午後一時から降り出した粉々の霏雪は、そゞろに石城の天地まだ如月初めの春淺きを感せしめた、日中小歇み無く降り續いた上、夜に入つては風さへ加はり地方には全く珍らしい吹雪となつて宵の裡から停電また停電、物凄い北國の夜を現出した、町家は早く大戸を下ろしてひつそり閑と靜まり返り、自轉車も全然姿を消して物の怪に怯えた様に雪の夜は更けた、九時半頃からは電燈の故障終に復舊せず、時折不氣味な稻光さへ閃いて家根を辷る雷の音と電線に吼ゆる風の音に巨人の忍び歩く様な氣配は夜もすがら續いた

「未だない大雪だ」 五十台の老人も驚嘆

積雪量は一尺三寸位か

何せ五十台の老人連も『俺達の覺ねてゐるのでは未だこんな大雪を見た事はないよ』と驚いてゐる程だから容易に想像出來るわけだ、正確な積雪量をきくにも小名濱測候所と神谷の農試分場が何れも電話不通なのでそれも出來ないが各方面の消息を綜合すると大体一尺二、三寸、吹きたまりの處で二尺五寸以上にはなつたと云はれてゐるから雪國と遠つて大雪に對する設備の完備してない地方の打撃は無理もないわけだ

ダイヤ目茶／＼ 平驛大狼狽

上り 昨夜九時着列車が一時間遲れて十時着、前途の見通しがきかぬので今五日午前一時漸く發車、以後不通で今朝八時着下りが折返し九時五分頃恐る／＼發車した、次が昨夜の十二時四十九分着、同五十九分發列車は龍田で立往生の上、今五日晝近くの十一時二十分頃漸く平着、同三十分發車

下り 昨夜九時二十七分着列車は途中難行を續けて今五日午前八時やつと平着、この汽車で郡南方面からの通學生が多數はき出され同列車は更に富岡方面に向け發車したが草野迄行くと立往生で已むなく引返し、晝近くなつてどうやら開通を見、昨夜十時二十八分發急行が十二時間五十八分遲れて到着、今五日午前十一時二十六分で出發した、すぐ後に土浦發列車が同三十六分（平日は午前九時三十四分着）で到着したので殺風景のホームにもや〻活氣がついた

磐越線 常磐線に較べて大した遲延は見ないが今朝七時五十三分着のものが四十五分遲れて八時三十分着、八時三十分着が五十分遲れて九時二十分到着、晝近くなるにつれ殆ど常態に歸した

「オー汽車だ／＼」

黒煙で始めて列車の進行を感知

自然の猛威に鐵道のダイヤは目茶／＼だ、電信は勿論電話も僅か平―綴間が通ずるきり他は何れも駄目なので全然他方面の情報が入らず從つて列車も不安で思ふ樣に進行出來ぬためみんなノラリクラリ、漸く驛の附近に黒煙があがつて初めて列車の進行して來た事が判り一齊に『列車だ／＼』と連呼して準備する騒ぎは丁度明治初年始めて汽車と云ふ怪物？が通る事になつた當時の模樣と同然だ、通信機關の不通から全然他の情報に判明せぬが遲延を來した外何れも周到な注意を拂つたため脫線、轉覆等の事故はなかつた

白魔に祟れた鐵道珍風景

電柱はみな將棋倒し

我孫子からの乘客談

今朝の八時着下り列車で降りた我孫子からの乘客は何せ電信、電話が全然不通なため列車も思ふ様に進めず、てんでお話しになりません、水戸、土浦邊の電柱は何れも將棋倒しでしたと目を丸くして語つてゐたこの客が我孫子から乘車したのが定時より二時間遲れた昨夜の七時三十分で、平日なら同夜九時二十七分着の處何と今朝の八時に漸く着いたんだから十時間三十三分の遲延となる

鎌田青年團員排雪奉仕

鎌田町青年團員二十餘名は今早朝第三小學校兒童のため鎌田町より同校前に至る通稱中道の排雪を行つて登校を容易にし附近民より感謝された

小學生の雪合戰

平町各小學校では珍らしい積雪から早速各校庭で雪合戰を催し兒童何れも活潑な遊戯に發汗多く二校時かぎり退校せしめた

生徒の遲刻で各校閉散

在平三中等校に於ける今五日の遲刻生徒數は列車不通その他の關係で何れも在籍數の四割乃至五割に及び閑散たる有様で開校以來の數字であるといつてゐる、磐女にその例をとれば

在籍八二四　遲刻三三七
缺席想定四二　出席四四五

（午前十時調）

雪景色二題

肅正運動に大童の平署では早速玄關先に大きな後藤內相を型取つた雪だるまを作つて『清き一票』の行使普及に文字通り汗だく、署員連も『この雪では買收運動にも出掛けられねえから正に肅正雪だぞ』とかへつてこの大雪を歡迎してゐる

◇

鎌田橋附近の電柱はへし倒されて電線は宛然縺れた糸のやうに路上に亂れ通行人もビク／＼の態、昨夜四倉行きの乘合も立往生となつて朝まだきから運ちやん連が一生懸命だつたが車はから廻りするのみでサッパリ捗れなくホト／＼手に餘してゐた

電線切斷、通話不通

平局の電報（電信）は市外何れも不通、同じく電話は正午綴線が回復したのみで市外何れも不通、市內も各所に故障あり不通の個所多く雪解けと共にぼつ／＼回復しつゝある（零時半記）

一人宛を最少限に 「多數のものを救出」

身賣の資金貸付けに 平紹介所の新方針

凶作による生活苦の重壓に耐ねられず可愛い娘を身賣せねばならぬ貧弱家庭に對し平職業紹介所では旣報の如く昨年一月來これが身賣防止のため資金貸付けを行つて來たが現在迄この温い救ひの手に危い一歩前で更生の道を辿つたものは三十三名、この資金總額千六百十圓に上つてゐる

一人の貸付限度は五十圓で特別のもの百五十圓が一人、最低が二十圓で最も多いのは相、双二郡、郡內では四倉、大野、赤井等が比較的多い

同所では今後滯納資金の回收に乘り出す一方一人當りの貸付額を最少限度にして救助する方針で進む事となつた

白米泥捕る

昨夕鎌田地內で

昨四日午後六時頃平町鎌田町地內で白米をリヤカーに積んでひつぱつてゐた不審の男あるを平署員が調べると右は双葉郡廣野村大字折木三〇農前科一犯坂本治平（四五）で四倉町新川佐藤貞太郎方に奉公中白米四俵を掻つ拂ひ平町邊で賣り飛ばす心算でゐたもので目下餘罪追究中だが同樣竊盜五、六件あるらしい

轢逃げ事件頻發

最近で早くも七件 當局取締に腐心

法規の改正によつて一たん事故を起した者には營業停止や運轉免許狀取上げ等と云ふ手ひどい處分に附されるので最近自動車の轢き逃げ事件が多い、舊臘來判明した分のみを擧げても

內郷地內二回　湯本二回　四倉　小名濱　平各一回

で七回の多きに及んで居り二、三日前も豐間村薄磯地內道路で同村鈴木某（五）がトラックに轢かれ前額部に裂傷を負つたまゝ屆出を怠た運轉手があり、矢継早に起る怪事件に當局でも少からず腐心してゐる

滿載のトラック 橋上から轉落

幸ひ同乘者は無事

三日午後一時頃小名濱町定西菅原勵方運轉手武藤泰助（助手横山直記代同乘）が鰮煮干六十俵を滿載したトラックを運轉、同町古川橋にさしかゝつた際中央のケタが折れ大音響と共に河中に轉落、幸ひ同乘者は無事、通行の頻繁な場所だけに一時は大騒ぎであつた、尙同橋は目下工事中のものであると

兎毛皮納入

郡下の二千枚を 七日下檢査

陸軍省納入兎毛皮の第三次現地購買はいよ／＼來る二十二日より三日間行はれる豫定であつたが被服本廠の都合によりこれを繰上げて來る十四日より三日間福島市早稻田町誠壹株式會社倉庫において施行する事に決定したが納入豫定枚數十萬枚は期日までに出荷し兼ねる狀態にあるので縣農會では極力集荷に努めてゐて大体七萬五千枚前後までは出荷せしめる意嚮であり、更に前回九十九パーセント六の合格率を示したのに鑑みその聲價を低下せしめることのないやう下檢査を嚴重に行ふことになつたが本郡は明後七日平開体事務所で行ふが檢査豫定數は二千枚であると

凶作防止に 品種の作付

郡下で四町六段歩

縣では過去二ヶ年に跨つた凶作に鑑み萬全の防禦對策を考究中であるが先づ凶作防止は耕地改善上品種の選擇が最も緊要なるを認め曩に選定の百十六ケ町村に更に昨秋冷害激甚なる五十八ケ町村を加へ計百七十四ケ町村に於ける地勢、地形、標高、氣象の狀態に灌漑水等の關係を考慮して部落毎に早中晩を組合せ適當なる品種の作付けを普及徹底させることになつたがこれが實施指導地は二百三十九ケ所、總反別九十町歩に達してゐるが郡下は十ケ所、この反別四町六段歩であると

應齋草庵を訪ふ（一七）

＝日本畫漫談＝ 間添風

繪其の物は未熟であるかも知れないが、其所は職業柄日本畫の大家は誰々一流二流は誰々位は流石に素人よりは明るい筈だ應齋が來平して我は一流の畫伯なりと見得を切つた時其の態度や其の繪に感心する前に以上に方法で應齋の畫壇上の地位を確めなかつた事は素人の悲しさである

石城には新舊共名家の手の成れる繪畫が澤山あるが僞畫の多い事も事實である古書としては谷文晁の繪が多く現代畫家の作品にも時折り僞畫が現はれる事を聞いてゐる、繪畫の眞僞は値段に關りない高價に買つたから眞蹟であるの安いから買物だと思つたら間違ひだ繪畫の眞僞は專門の鑑定家を煩すのが一番賢明な策である、鑑定は家神でない過には見損ひもあらうが其れ迄問題にしては切りがない已に金錢の交渉が終つてから贋物と知つてペンをかく例はよくある事である、各派各流の權威ある鑑定家は誰であるか鑑定の方法は如何に微細な注意が拂れてゐるか書けば限りが無いから漫談もお仕舞ひとしませう大正以前の事は知らぬが石城地方へ來た畫壇の大家は荒木十畝氏と鑑定家では鳥谷幡山氏（共に一流）の二名だと私は記憶してゐる（終）

僞畫伯公判

明後七日平區で

『玉齋』の名は今やインチキ事、イカサマ男の異稱とさへなつてゐる――古今未曾有の大畫家？である彼竹田由次郎（五三）＝當時東京市板橋區大谷口町六九＝が郡內の外全國を股にかけて三萬六千有餘圓を巧みに捲上げた稀代の詐欺事件は明後七日午前九時から平區中島判事係り氏家檢事關與、酒井辯護士立會の公判に於て愈々その惡の營みが白日の下に曝け出されることになつた

郷土藝術 達磨の話（三）

（萩堂）

この外に繭の達磨なども賣つてゐるが近頃の創作らしい

福島の達磨は平常は福島の市では賣つてないが他に勝れた郷土藝術品であるから縣內各地のものを商品館あたりで陳列して置いて欲しいものだと思ふ

□

三春の達磨は福島の達磨と似てゐる同一系統と見る事が出來るこの特徴は顏の赤い事だ三春地方は昔から煙草の產地で、その煙草の葉の仕上がりの色にあやかつたのだといふ良好なる仕上がりを祈る意味を持つてあるのだ、甲府に綿達磨と呼ばれる眞白な達磨があるが、これは甲府附近が綿を盛に作つたときに綿の好い出來を祈る意味で特に白色にしたものだが、これに類するもので地方の產業に關係を持たした所が面白い

三春ダルマの起原は德川中期頃で江戸の製法を傳へたものだといはれてゐる、現在の製造元は田村郡高野村といふ山間僻地の農家である

市場は舊正月十二日三春の初市、一月七日の郡山馬頭觀世音緣日の七日市が主で福島地方にも移出される

こゝにも起姬がある、福島の樣に全くの圓錐形ではなく腹のあたりにふくらみを持つてゐる福島のよりは幾分小さいが系統は同一であらう

□

白河のダルマには仙台ダルマの影響は全然ない、むしろ關東式である、只關東は大部分目無しダルマであるが白河のは目が入れてある、顏以外は全部赤で塗りつぶして金粉の簡單な模樣がある、その金粉が一寸觸れてもポロ／＼落ちる、これが又金を振りまくといふ理で喜ばれるらしい、目が上向きに出ばつてゐる、粗製品で値段も安い白河のダルマ市は舊正月十四日に中町通りに立つ樂翁公時代からの行事だといふから歷史は古い、製造元は町內の横町にある

□

會津のダルマは顏の下半部に青い輪廓がある、顏は獨特で他に類例のない程いかめしい、体は細く出來てゐる、胴には寶珠の玉が描がいてある

製造元は若松市內にある舊正月十日の十日市は昔ながらの賑はひを失はない

外に小ダルマがある、起き姬ともいふ、姬といふ事が出來るかどうか性別の判然しない程粗雜簡單なもので一寸つまんで上部[illegible]く下半部を赤く塗つたといふ程度のもので一箇一錢位からある、天保時代に創められたもので正月に家族の數よりも一箇多く求めて飾るのだといふから大分多量に製產されるらしい

□

以上福島縣管內のダルマについて書いたのだが日本全國各地に特有のダルマがあつて各その地方色を現はしてゐてこれと比較研究する時興味津々となるものがある中にも仙台の松川ダルマ、會津の八幡起上り、松山の女ダルマなどは白眉で作るも念が入つてゐるし値段も高い（完）

六日 （小名濱測候所調査）
日出 六、三四 月出後 四、〇四
日沒 五、〇八 月沒前 五、三一
滿潮 前四、四〇 後二、三〇
干潮 前九、三〇 後一〇、〇〇

新 二月六日 木曜
舊 正月十四日 戊午 友引 定 角宿

諸判定應需
東京市本鄉區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部 神誠館

▲一白 人に頼らず自己の信念を以て事を處すべし▲二黑 福德備るも人和を失ひ易く爭論はさくべし▲三碧 辯舌を愼しみ篤實溫厚なれば援助を得大吉▲四綠 急功を欲せず穩かに進めば諸事向上を呈す▲五黃 進退の自由を失ひ窮境に陷り易し輕動愼▲六白 運氣盛にして目的を達する端ちよを發見せん▲七赤 身の分限を守り進退時を以てすれば吉なり▲八白 さ事に拘でいせず熱心に自己の本分を盡し吉▲九紫 きいうのわかれ目の日ちぎせず熱心に萬事を謀れ

茶道 裏千家
華道 未生流 格花
小原流 盛花、瓶花
教授いたします……。
稽古日は 茶道…月六回ニ、一、六日
華道…毎週土曜日
◇出稽古も致します。
場所平町字二丁目常陽銀行横
地球堂書店內
裏千家 未生流 小原流 比佐宗弘

耳鼻咽喉科專門
病室完備 自炊ノ便アリ
平町田町（電六九一）
山內醫院
醫學士 山內亨吉

平町田町（電話五三一番）
高久病院
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽清
藥劑士 佐竹菊雄
內科 小兒科 外科 花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科

藥品 百貨
福島縣平町二丁目
西村屋藥舖
藥劑士 鈴木堅助
電話 三番
振替 東京六・二九九 仙臺一・二〇一